平成 25 年度第２回
生物多様性こうち戦略（仮称）策定検討委員会　要旨

日　時：平成 25 年８月２日（金）９：30～16：30
場　所：高知共済会館　３階「藤」

内　容：※下線部は事務局の回答及び意見

１．章立ての整理について

第２章「こうちの自然」と第７章「高知県の課題」、重複するところがあるので、整理して方針を決めていったらどうかという意見がある。

現在の構成に至った経緯 生態系について、執筆者には、昭和 40 年ごろを原点とした生態系（奥山、人工林、里地里山、川）の現状について、文字数 1,500～3,000 字で依頼をおこなった。その後、「生物多様性の概念を全然知らない人が読む」ことを想定し、まずは「高知の暮らし、生きもの等、現状をまず知ってもらう」という趣旨で、現状と課題の間に「生物多様性とは」を移動させ、内容をシャッフルした。現状と課題を分離したため、現状の部分の山には奥山の一部を、課題の部分には奥山、人工林、里地里山を持ってきた。課題の部分は必然的に山に関するものが多くなっている。

（１）「第２章　現状（生態系）」、「第７章　課題（生きものが暮らす環境）」、「第９章　行動計画（守る）」の生態系の順序は、「身近なものから遠くへ」の流れにしたいので、まち、里、川、海、山に統一する。　※池は、人工湖以外はないので、川だけでもいい。

（２）内容については、里山など現状の変化そのものが課題になっているものもあり、課題と現状を分離するのは難しい。このため、第２章に課題も含める。第７章では、第２章で述べた「たくさんある現状と課題の中で、高知県が課題として認識したのはこれ」とわかりやすく整理をする。県民に示せるような形に整理したほうがわかりやすい。第５章と第７章もリンクしている。整理が必要。第７章は、生物多様性の危機を踏まえた形にする。

２．資料３本文の修正案について

事務局より庁内調整で意見の出された箇所及びそれに対する編集の考え方について説明を行った。以下、議論になった部分を抜粋。今後は、章別にメールで確認をお願いする。９月の検討委員会には、修正、確認をしていただいたものを提示する。

№５～７

随筆調、衣食足りての部分は、整理をする。「健康で心豊かに暮らすことができる」が生物多様性の領域を超えているという意見は、生物多様性の価値が理解されていない証拠。「健康で」というのは、生態系サービスの中の教育サービス、基盤サービス、調整サービス。「心豊かに」というのは、文化的サービ

スで、生態系サービス究極の目標であるから、ぜひ残しておかなければならない。もう少し補足の表現が必要であり、調整をすべき。

№14

修正案２行目「河沼が数多く埋め立てられた」というところの「河沼（カショウ）」という言葉は、「湖沼」か。河川と湖沼であれば河川・湖沼とする。まちの部分なので「堀や沼などを埋め立ててきた」。書き換えが必要かもしれない。

№17

修正案の「効果があった」というのは、客観的な表現ではない。取り組みが始まっているということを評価して書くことはいいと思うが、効果が挙がったかどうかは、書き過ぎか。

原文のほうの「これからは人以外の生きものも視点に入ってこなければいけない」「これからは人間以外の生きものが一緒に生きる視点が必要だ」というところが削除されたので、うまく修正のほうに……。「できています、できています」ではなく、足りないところが生物多様性というキーワードに近寄っていけるような表現にならないだろうか。

行政の取組は評価しつつ、それにもう１つ目的を付加する形で「今までやってきたことに、さらにこういうものを付加しましょう」というような書きぶりに変えたら、割と受け入れてもらえるのではないか。

№26

速度の単位はノットよりもキロのほうがわかりやすい。

№28

富栄養化が特に問題になっているのか。

宿毛湾で、今、問題になって対処しようとしている。赤潮の発生が問題になっているのは確かだが、それが単純な富栄養化かどうかは、若干問題がある。ちょっと表現を考えたほうがいいと思う。

【コラム　新堀川】。

・このコラムの部分で言いたいことは、江ノ口川の再生の活動と、他への波及（浦戸湾全体がよみがえること。）を一番に伝えたい。

・基本的には高知県の文書になるので、個人的な考えは削るべきだと思うが、事実は事実として「こういう川もあるよ」という客観的なところは、残してもいいのではないか。まちの戦略としては、ウオーターフロントを大事にしたまちづくりというのが、今後、戦略のポイントになっている。

・新堀川と江ノ口川だけを抜き出すから、そこが際立ってしまう。せっかく渡部館長にもお話しいただいたのだから、「高知と水」、「運河」、「お堀」という全体的なものをポンと出して、その中に新堀川も当然あるという。表面に今、浮上している問題だけをとらえて課題のではなく、根本のところから掘り下げないと物が見えない。高知市というのは河内であり、中州みたいにまちがあって、運河のまちであることもコラムとして入れておき、「その中にいろいろな要素がある」としておけば、客観的な事実という

とらえ方ができるのではないか。
・「汽水域が非常に広範に広がっていて、ものすごく特徴的な生態系がある」ということを載せておかないのは間違っていると思う。お堀、水路等々を全部含めて、「高知市内には、こんなに面白い生態系があるんだ」ということをここで強調しておくのは、非常に意義があるとは思う。
・戦略書なので、将来に結び付くような形でのまとめが欲しい。将来的には、はりまや橋の辺りでアカメを釣るみたいな、そういうグランドデザインを書いてもいいわけだから。
・持ち帰り、調整する。

№32
・生態系サービスのところで「高知県の特徴を拾い上げることは必要だ」という議論があったので、これをバッサリ削るというわけにはいかない。大事な情報なので、ほかとのバランスを取るような形で圧縮する。残りの部分は資料編などに回すということでどうか。
・「人々のもっと身近なものだよ」という意識が損なわれない程度に残しておくべき。
この内容が、行動計画につながっていないので、文化や技術の継承という意味でも、行動計画のほうにしっかり書き込む必要がある。
・「狸のしおき」について、「飲むとよく効く」と言い切っているのは不適切ではないか。
・聞き書きで、誰かがしゃべっているのを聞いたものだと思うので、引用元の「聞き書き『高知の食事より』」を明記する。

№35
「雑茶」という表現が適当か。生産量がないから特産品と言えないならば、農業から外して食文化に移してはどうか。農業から外したほうが良い。

№54～59
観光業はボリュームを増やすべき。

№60
希少種情報は、現在の内容レベルであれば掲載して問題ない。

№75
・「干潟環境の減少は護岸工事だけに特定されたものではない」という表現だが、歴史的にずっと見てきた過程では、護岸工事だけじゃないかもしれないが、公共工事、埋め立てとか護岸工事は決定的に大きい。
・現在は行われていないが、護岸工事はいっぱいあったのだから、過去形にしてはどうか。

№83
・海水温の上昇による磯焼けの問題は、サンゴに関係あるのだろうか。
・海水温の上昇が直接影響するのは海藻の枯死ぐらい。磯焼けというのは、それが持続することなので、

海水温の上昇だけでは説明できない。逆に、海藻が全部枯死した後にサンゴが入ってきて一面サンゴに替わってしまうっていうのは、磯焼けではない。いろんなパターンがあり、磯焼けは１つの結果ではある。

№93～94

執筆者の岡村先生からは「生物多様性のこちらの戦略仕様に合うように改編していただいて構わない」とのこと。石川先生から相談していただく。

３．タウンミーティング結果報告について

タウンミーティング受託者の四国生物多様性ネットワーク谷川氏より、資料（追加４及び資料４）に基づいて説明がされ、議論された。

（１）課題、報告書について

・課題は生きものの話ではあるけれども、いずれも人という要素が非常に深く絡んでいる。
・県内、場所は違えど似たような課題を抱えている。
・生きものに関する報告が意外に出ていないが、各分野の中に入っている。
・報告書として、カテゴリーの分け方は生態系のほうを重要視した。
・地域についても、地域の課題が薄れることを危惧して抜き出している。
・生物多様性は結局、地域の連携、経済の問題、教育、人の課題などが皆さんの今の悩みに直結しているのではないかなと感じた。

（２）行動計画への反映として重要な内容

・分野共通で、実態の把握は必ず必要。自然科学の研究者の方はたくさんいるので、山、海、川や、遺伝子汚染、農業などに関しては、実態把握がある程度できると思う。だが、人や地域の課題に関しては、あまり研究している方がいないのではないか。だから、現状の把握は必ず行うべきだと思う。
・分野共通で、社会とか生活がどんどん変化していっている現状については、きちんと言及するべき。現状把握につながる「何でそうなったのか」経済の問題も含めて、原因はある程度冷静に見ておいたほうがいい。
・人と教育と地域というのは、全部一体化するのだから、文化の継承も含めて、人の視点が重要。施策を立てたときに、実施主体が明確でないと誰もやらない。
・「ただの虫」などの表舞台には立ってない、裏方の目立たない生きもの（縁の下の力持ち）のことを拾い上げるような視点をもつこと。
・「移住者と伝統と継承」というテーマで考えると、中山間地域の人口増を高知県は取組んでいるが、「その人たちの職業なりライフスタイルなりが、生物多様性の中でどういうふうに生きてくるか」、そのようなものを１つぐらいは短期目標に入れておく。「その人たちが求めているものは何なのか」「それが生物多様性についていい影響を与える接点はどこなのか」というようなものが１つ入ってくると、目玉になる。県の施策とリンクさせたほうがいい。

（３）組織づくり

タウンミーティングで出た一番重要な課題は、地域のデザイン、「どういうところに住みたいのか」「どういう暮らしがしたいのか」そのためには、どういうふうに地域をつくっていくのか」それを推進していく組織の問題がある。Ｉターン・Ｕターンとネイティブ、両方含むような協議会など。生物多様性センターを立ち上げるのは現状では難しいので、県の組織だけではなく、それ以外のものをうまく活用できるような仕組みづくりをミッションに書き込むということ。連絡体制でも、お金を出せば動いてくれるような人、それを元締る人。それを、えこらぼを使ったり、四国生物多様性ネットワークを使ったり、方法はあるのではないか。

（４）県の助成金・補助金

今ある助成金の対象に、生物多様性のことを入れていただきたい。

生物多様性に対する取り組みに出る助成金というのは、１つもないのが実情。川や山や森に対しての助成金はあるけれど、生物多様性に対しての助成金をもらうには、名目を言い換えてやっと何とか使っているのが現状である。助成金が下りれば、あとはＮＧＯ側で何とかしますよという言い方もできる。

愛知目標にあるところの「あらゆるソースを生物多様性において活用できるようにする」というような、助成金の融通さがあればいい。

（５）外部資金

組織がいくつか共同で運営するのであれば、地球関連基金などは３年や５年というスパンで獲得できる方法もある。県は主体ではないが、サポートする１つとして入ってもらう。行政が入っていると通りやすい資金があるので。

県のミッションとしては、資金のソースの掘り起こしをサポートをするとか、中継ぎをするとか。

いずれにしても、現状ある組織をうまく活用する方法での組織づくりを。

４．グランドデザインについて

理念や行動計画を書くには、目指すイメージ像が明かでないと書きにくい。このため、「高知県の目指すイメージ像」を共有するために、資料「追加２」を使って議論を行った。

・2050 年では遠過ぎる。多分、石油もない。どう考えていいかが、よく分からない。

・エネルギーの問題が抜けている。すごく肝心なエネルギーの問題がない。2050 年には水の問題はクリアしていると思うので。いい水があって、食糧があって、電気があるという、この３つがそろっていなかったら、事実、生き残れないだろう。2050 年にはエネルギーの問題がもっと前面に出ているはず。2050 年にソーラーパネルのメンテナンスが本当にできているのかどうか。

・バイオマスエネルギーというのは、言うほど簡単じゃない。山にいくら資源が腐ってても、運賃だけで、それぐらいのコストが掛かっていく。結局は個人の持ち出しが多く、犠牲のもとでやっている。各

地域・地域でそういうことが受け皿としてできるかと言ったら、不可能。

・グランドデザインっていう意味がよく分からない。
・タウンミーティングで課題に挙がっていたのは、過疎化で人口減少して衰退している産業だとか地域を、どうやって持続的に今後担っていけばいいのかということ。山間部でも、人の配置がどうあれば持続できるのかということ。このため、生態系が完成されたデザインではなくて、人の配置、産業の配置とか、産業基盤みたいなほうのデザインがイメージに必要だと思う。
・タウンミーティングでキーワードになっていたのは一次産業。農業、林業、水産業。それが高知の基盤であって、それを生かした地域の持続性。
・渡部館長が示してくれた高知県の昔の地図が、山と川と海でできていて、まさに大きな高知のデザイン。その中に、いろんな産業の要素、人の要素、自然の要素なんかが、高知市であれば高知市のデザイン、山間部であれば山間部のデザインというように、地域によって変わってくるのかなという印象を受けた。
・人間を中心とした海辺の集落とか、都市とか、あるいは山間地……そういう人を中心としたコミュニティーの組織図みたいなものを。かかわってくるさまざまな社会的、人的な要因を、それこそ人、地域、ほかの経済、そういうものを全部含めた目指すべき構図みたいなものを分かりやすく示す。
・都市と漁村、沿岸の人がどういうふうにつながるのか。よそからＩターンで来る人、あるいは同じ高知県の中でも農村と漁村とのつながりはどうあるべきか。
・このメンバーで 40 年後のイメージを勝手につくったら駄目なんじゃないか。県民が議論できる形が要るのであって、僕らが「こうありたい」というのは県民の望む未来ではないかもしれない。議論をしないといきなり未来を描けと言われても、描けない。議論というのは、何年間かかけて、いろんな主体を入れて、ちゃんとやらなきゃいけない。

・「生態系サービス」という言葉は新しい。当たり前で空気のように見えなかったものが見えるようになってきた。「生態系サービスをうまく利用して、楽しくみんなが暮らしている高知」という視点も面白いなと思う。
・生態系サービスがうまくわれわれにいろんなサービスをしてくれるような絵は、ビジュアルにあると県民に「こんなイメージがあるんだ」と具体的に分かりやすいというメリットがある。
・理想と将来像は分けていいと思う。こういう目標戦略があり、理想があるので、理想を図面化したり。生態系サービスの仕組みは描けるのではないか。
・これはもうバイブルみたいに描く。それは目標であり、夢を語るっていうのは必要だと思うので、絵に描いた餅でいいと思う。

・公共工事に住民組織がかかわっていって、行政が分かってない分野を知らせていく。そうすると、ちょっとでも川が再生していく道筋ができる。具体的な住民組織が必要。
・物部川では、うまく連携できている。そこのポイントは何かというところは、モデルケースとして戦略に盛り込む必要がある。理想は理想で、やはり示しておいたほうがいい。

・県の全体の俯瞰（ふかん）したような図も、１つ必要だと思う。海と山と川みたいな、ざっくりした図。その理想的な形。自然共生系の考え方もある。都市部と里地・里山。生態系サービスとウォーターフロント、水辺の豊かな、水辺をすごく楽しめるような空間。はりまや橋で釣りがしたいとか。
・「流域」といった環境でつなげたものと、もう１つキーワードとしては、「人」。人がつながるのは、ハブをつくって、各地域の小都市、小市町村なり、そういう中核的な所をつくっていくイメージがある。
・高知市まで出てこなくても、「あそこに行けば何でもあるよ」っていう中核都市の配置機能、グランドデザインが。
・物流を一回止めると、そこにまちができるという話が印象に残っている。経済の流れとか地域の特性を生かした産業の振興だとかいうことは、イメージとして描けるのだろうか。

・県では、いろいろな部署がいろいろな形でかかわってるので、この地域戦略でそこまで経済の流れだとかいろいろ言い出すと高知県総合計画になってしまう。ここではやっぱり生態系の確保、保全っていうのをメインにつくり上げていただいたらどうか。

・生態系ネットワークの、川でつながる、海の上でつながる、尾根でつながる、というようなイメージだったら、もう既に環境省のつくっている四国の生態系ネットワークをモデルにして描くことができる。それプラスα、高知県の中のネットワークのつながりをもう少し具体的に描く。そこに人の地域のデザインをチラッとちりばめる程度には描けるのではないか。農業、林業、水産業を追加。

・できたら、84％の豊かな森で、きれいな水があって、というところを協調して描いていただけたらなと思う。山がしっかりしているところは、水が増えても、濁っても、さっと元に戻る。
・生きもの、両側回遊生物、川と海とをつないでいる生物の動きというのがとても大きいので、それをぜひうまく描き込んでいただきたい。
・もっと豊かな草原で、ポツポツとシカがいて、という生態系のバランスも描き込んでいただけると。
・山中にも林だけじゃなくて、森だけじゃなくて、草地がちゃんとあるような状態も描いてほしい。
・高知県、干潟が少ないが、湿地環境も点々と残っているので、それがもう少し広がるとうれしい。
・海に、サーファーや観光客がいっぱいあふれてる図は欲しい。
・人を描き込むなら、やっぱり一次産業がもっとしっかり描き込まれているといいんだと思う。どんどん複雑になっていくが。
・方々バラバラな人の絵を描くのではなくて、例えば祭りとか、そういう人のつながりが間接的に見えるようになってくればいい。個々の人の描き方を、「遊びに行く」とかいう短的なものじゃなくて、生態系の一部の中に「ここに人の集まりがある」というのがイメージできるといいなと思う。つまり、集落が維持されているということ。そこの地域の暮らしが豊かになるから。
・『ウォーリーをさがせ！』という絵本のような感じに、描き込んでいただけたら。「ええー、こんなところもあるんや」「こんなふうにシカがおる」「こんなところ、潜れるんや」「これ、どこやろう？」と、大人から「見なさい！」と言われなくても、子どものがジッと見入ってしまうようなパンフレットにしていただけたら、教育現場としてはうれしい。
・季節性を書き入れてもらえるといい。地域環境研究センターの出しているカレンダーは、こっちは冬、

こっちは春、こっちは夏、こっちは秋っていうふうに、１つの地域なんだけど、全部季節を変えて描いてある。桜を載せて、紅葉で、面白い。

５．事業所研修会結果報告について

事務局より、事業所研修会を終えて、課題の補足をおこなった。

・広報しても人が集まらない。事業所の方々は、生物多様性に関連する取組を色々とされていることは研修会で把握できた。しかし、生物多様性という言葉でつながってないために、広報しても来ない。

・事業者に意識が浸透してからじゃないと、うまくいかないのだろう。事業者に関しては、長期的に行う。

６．行動計画（案）について

行動計画（案）について、内容を確認し、以下の部分については出された意見を参考にする。

108 ページ　「１　知る・広める」

「イ．生の自然を体験するため、動物園・植物園などを訪問し、自然や生きものを体感する」

・「生の自然」の「生」は、ずれてる感じがする。「生」が付いたから、「体感する」よりは「学ぶ」。「積極的に利用しましょう」なら、ちょっと分かる。

・動物園とか植物園はレジャー施設だと思ってる県民の人が、かなり多いが、研究機関でもある。啓発するための機関であるということは意外と知られていないので、それを出したい。

・せっかくなので水族館も入れてほしい。

110 ページ　「１　知る・広める」

（５）調査・研究

・「カ」にアマゴの調査計画を追加してほしい。県でも内水面の方でとりくんでいる。

②生物多様性を把握するうえで重要なデータを蓄積します。

・「イ．野生生物の生息生育情報の蓄積に努める」を追加してほしい。

・野生生物の情報がちゃんと収集・蓄積されていないと、生態系がどうなってるかが全然分からない。教育にもつながらない。

・「野生生物の生息生育情報の蓄積に努める」となると既にいろいろなところがやっているが、重点目標。県の担当課は、強いて入れるとすれば、環境共生課。牧野でやっているのは連携で、大学でもいっぱいデータベース作っている。海もデータベースは作っている。ということで、主な実施主体は環境共生課、ＮＰＯとする。

111 ページ　「２　つなげる」

（１）基盤整備

①「地域のことは地域で守ります」

・「地域のことは地域が中心になって守ります」に修正希望。

112 ページ　「２　つなげる」
（２）資金ソースの確保と拡大
①助成金等を活用します。
「ア．生物多様性の保全・回復のために行う取り組みに対し、ふるさと納税を活用する」
「イ．生物多様性の保全・回復のために行う取り組みに対し、森林環境税を活用する」
・県の事業の予算配分を、補助金とか、助成金とか、そういう形で民間活用できるところまで、直接やってほしい。もっとふんだんにパーツを増やしてもらうほうが、ＮＰＯや民間が活用しやすい。書いてあっても、対応が見えてこない。
・国のお金で何とかできるようにサポートしてもらうようにはできないものだろうか。お墨付きをもらうのが限界だろうか。今回は、そこでとどめておくほうが。何回押し問答やっても、結局同じ話なので。
・「幾つかの主体が、高知県の生物多様性のことについて動きます」というような大ぶりなものをつくって、そこのネームバリューで中央のお金を引っ張ってくるっていうのが、現実的には一番可能かなと思う。取りあえず、この「オ」を介して、現実的なほうで動くということでいいだろうか。

「ウ．生物多様性の保全・回復のために行う取り組みに対し、高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金を活用する」
・豊かな環境づくり総合支援事業費補助金で使えるのであれば、ありがたいが、書き込んであるということは、「多様性に使ってもよろしい」というお墨付きが出たと解釈していいか。今までも言い換えでやってきているので。例えばカエルの保全のためだったら出るけれども、仕組みづくりに対しては出ない。

・補助金の考え方として、ここだけはなく一般的に、何かを目的とする活動についての助成をするということなので、活動をするための人の手当ては基本的には考えていないのが現状。人件費は、基本的には出ない。

・人件費のハードルが高い。それを認めてもらわないと、多分、民間をうまく活用していけない。ボランティアではずっと続かない。ボランティアの人のモチベーションがある限りはできるが、そうでなくなったら、難しい。県のほうで検討してもらえるとありがたい。国の金を何とかせいということになり、難しいだろうが。
・「協賛企業の確保に努める」、これ以上書けないのか。

「エ．中山間直接支払制度を活用して多面的な機能を持つ中山間地域の農地を維持・管理し、これによって生物多様性についても保全を図る」
・中山間直接支払に関して、今の要件項目に生物多様性という言葉は入っていない。国の制度なので、果たして県の裁量でこれが書き込めるのかどうか。地域農業推進課さんが「こういうふうなことをやりましょうよ」と言ってやっと動きだすようなもの。ポンと書いてあっても、多分誰もやらないだろう。地域農業推進課がどういうところかは大体分かるので、これはここでもう止めておいたほうがいいので

はないか。書かなきゃならないのだろうか。
・西土佐の奥山の集落、シカ、イノシシよけの集落囲いは、中山間直接支払で対応。取りようによっては、何とでもなる。分かるように書いておかないと。

②協賛企業の確保に努めます。
　ア「協働の森・川・海づくりパートナーズの増加を図る」
・「協働の森」が海に使えるという話は初めて聞いたので、びっくりした。募集は、どこで公開されているのか。
・海も、今年は、企業さんを当たって結び付けようとは努力してるが、まだ現実には至っていない。ホームページにも載っているし、県の対応も載せている。

116 ページ
④里地里山
「ア．里山の森林整備に努めます」
「ａ．住民・児童が散策や自然観察に適した森林の整備」
・105 ページ、教育の（２）のアやウに関連するが、こういう場所をつくれば、教育に実際に運用できる。

「ウ．里地・里山の生物多様性の認識を再生に努めます」
「ａ．森、谷川、溜池、用水路、水田、畑、鎮守の森などからなる自然環境は生物多様性に富むことを認識する」
・教育の視点としては、「見守る」のほうがいいのではないかと思う。教育モデルとしては「言われて渋々うごくのではなく、自分から主体を持って動く人になってもらいたい」という思いがあるので。「知る」という観点からは教育に入っているので「守る」のほうがいいのではないかと思う。
・それから、語尾の体言止め「整備」が混在してるのが気になる。直してほしい。

ウ．里地・里山の生物多様性の認識と再生に努めます。
・「ウ」の「ａ.」は要らないだろうか。⇒書き直し。
・「ｂ．ホタル」、「ｃ．住民・市民参加による……」要るだろうか。
・「再生に努めます」と書いてあるのであれば、「b」「ｃ」には再生に努める具体的な何かが必要。
・それであれば、「ａ」も「生物多様性の高い状態を維持するように努めます」とかにしないと、「守る」の文言としては、おかしい。
・それを言ったら、「ｂはホタルだけかい？って。ほかはどうでもいいのかい？」という話になる。「など」と書いても、言い出したらきりがない。
・長期目標として挙げなければいけないことは、たくさんになったとしても、ちゃんと挙げておいたほうがいいと思う。「将来的にこういう目標に向かっていきます」というのも意思表示しておく必要があるので、どんどん書いてもいいと思う。

・「山」「森林」は、分けるのだろうか。奥山と人工林、里地・里山は、分ける。奥山と人工林は、一緒にしちゃったほうがいいのかなという話をしたことがあるが、どうしたらいいだろうか。
・生態系のところでは山と奥山と人工林を合わせて山ということで統一する。
項目としては、まち、川、海、里地里山、山でいく。

118 ページ
⑤河川
・河川と水路は、どれぐらいの大きさの河川を想定しているのだろうか。県の担当課が河川課しか出ていないが。大きい河川だろうか？　今すごく自然が保たれているというような水路が、結構あるが。
・農業に付随した水路以外の、そういうのが集まった水系は、全部かぶっているのではないか。県が管轄しているものは全部河川になる。もちろん国交省も。
・管理者にしか話が行かないと困る。担当課に農業が入っていないが、河川課だけじゃなくて、農業も担当課として何かやれそうだ。
・担当課が担当してるところだけというのは、要注意だ。川の計画の中で漏れがないか。
・県の河川課が担当している部分というのは、はっきりしているが、それでいいのではないか。そういうふうに分けざるを得ない。漏れがあったら、まずいだろうか。漏れは、多少は出てくる。そんなにピシッとしたものはできないと思ったほうがいいのではないか。
・担当課は、庁内調整で修正している。冒頭の部分に関しては、今の河川のところは、この河川の視点から。で、128 ページの「活かす」の農業のあたり、例えば（２）農業の②「生物多様性の保全を重視した農業を進めます」の「ア．農地・農業用水の資源や環境の保全……」のあたりでうまいこと生物多様性の視点を盛り込んでもらえればいいかなと思っている。この地域農業推進課がふさわしいかどうかは、分からない。

119 ページ
⑥海岸・沿岸
ア「海岸・沿岸の生物多様性を守ります」
「ｅ．オニヒトデやサンゴ食巻貝類……」
・オニヒトデのところ、事業者のほうでしていると思うので、事業所に〇。

「ｃ．コミュニティ単位の市民参加型植草・植樹活動により、まちの緑化を推進する」
・こんなことをやってるところがあるのだろうか。もうやっているのか。
・やっていないと思う。先ほどあった長期目標の絵、生き物と触れ合える公園とかいうのに、生き物に優しいものを入れなさいということになるか。
・一番大切だと思うのが、道路。道路の管理とか、道路の法面とか、ひどいことになっている。生物多様性に配慮しているとは、とても思えない

②個体数や生息・生育地等の状況を把握します。
「イ．研究機関と情報共有などによる連携を図る」

・研究機関だけではなく、関係機関も入れてほしい。

124ページ　「３　守る」
（５）地球温暖化及び循環型社会への取り組みを推進する。
②環境への負荷の少ない循環型社会を推進します。
「ア．３Ｒの普及啓発を促進する」
・リユース・リデュースっていった３Ｒのところは、学校も○。

126ページ　「４　活かす」
①地域を活かします
・「ウ」に「伝統漁法の伝達」が入っているが、残念なことに漁業振興課のみになっている。高知市のタウンミーティングなどであったように、その地域らしさが生物多様性に守られていくべきではという発想があるわけなのだから。すぐにはできないと思うが、長期的な視点でしっかり押さえておいていただきたい。
・「伝統」について。食文化、祭祀とか、さまざまなイベントなど、文化的な部分をどこかに盛り込んでおいてほしい。

②資源を活かします
　エネルギーのところはすごく大事なので、微調整必要。まだこれで終わりではない。

128ページ　「４　活かす」
（２）農業
・微調整が必要。

②生物多様性の保全を重視した農業を進めます。
「ウ．棚田の保全活動やオーナー制度による放棄果樹園の再生……」
・担当課が入りやすいような表現に、少し緩めに書いていただく。
・本当は、分けて書かなきゃいけない。水田と果樹は分ける。所得確保とか雇用も分ける。３つに分けたら、名乗りを挙げる課があるのではないか。
・農業のところだけ、やけに文章が長いなと感じる。

131ページ　「４　活かす」
（４）水産業
②生物多様性保全を重視した漁場づくり、資源管理を行います。
「ウ．二酸化炭素の排出削減をもたらす土佐左黒潮牧場の整備を推進する」
・「黒潮牧場が二酸化炭素の排出削減を行って、漁協がすごく悩んでいる」と取れるが。「遠くまで行かなくても、近くで」ということを言いたいのだろうと思う。
・「燃料費の節約」とかにしたほうが、正しいだろう。収入が途絶えると、食えなくなるわけだから。

その他、共通

■　「せいいく」は、「生育」と書く場合と、「成育」と書く場合がある。普通、動物と植物で、字が違うが、ごちゃ混ぜになっているように思う。両方書いたら、ものすごくうるさいが、どうしたらいいか。

・環境省にそろえたほうがいいと思う。「生息と生育」、どちらも書くことで統一してほしい。

■　重点目標に○が入っているのは数値が入ってくるのか。数値を出したら何らかの成果を求められる。担当課が重点目標に「○」を付けてもＯＫだということは、「もう進めているので、そのペースで行ったらこれぐらい数値は達成できるよ」という心積もりがあると解釈して、いいのだろうか。

・重点目標に「○」を付けたからといって、数値目標を全部掲げるというイメージは、簡単ではない。数値のところに「○」が入っていないので、数値目標が入ってこないと思ってもらったほうがいい。この「○」の付け方については、もう一回、各課に返し、再度確認を入れるようにする。

７．今後のスケジュールについて

事務局より今後のスケジュールについて説明した。次回検討委員会を暫定的に９月19日とし、閉会した。